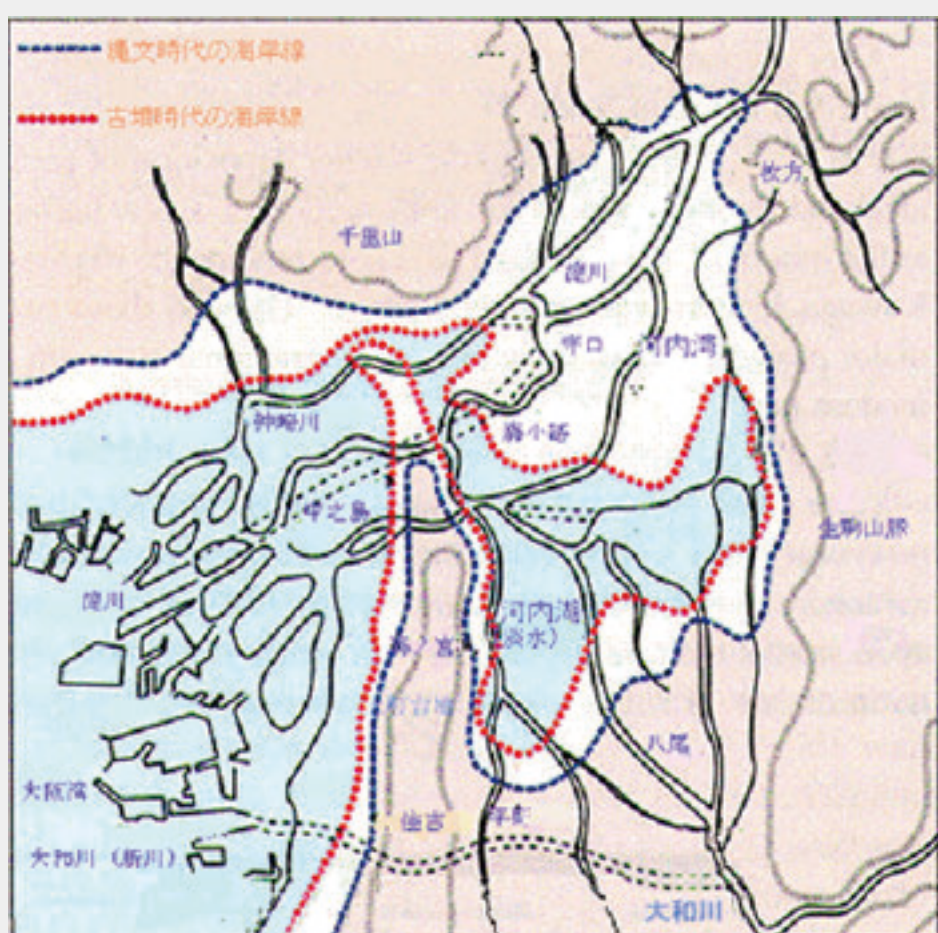




中河内ブロック 八尾支部 (有)  
平瀬ステンレス 代表取締役 平瀬 英司  
高野 明美 (八尾バル実行委員長)

以前、八尾支部の例会に参加された箕面の会員さんから「八尾が羨ましいですね、自然と歴史があって。箕面には自然はありますが歴史がないのです」と言われ、八尾に住みながらそのことに気がついていないわたしがいました。1970年、東大阪市布市で下水工事の際、マッコウ鯨の全体骨格が出土し、約4000年前のものと判定されました。つまり大阪平野は縄文中期には海で、弥生期のころには河内湖と呼ばれる汽水湖だったのです。下の地図でわかるように生駒、高安山の西麓は河内湖東岸を南北に結ぶ主要交通路だったのです。そして八尾市大竹にその高野街道を見下ろすように鎮座しているのが中河内最大の墳丘長160mの前方後円墳、心合寺山（しおんじやま）古墳です。2005年に4億円をかけて復元工事が行われ、3000本を越す埴輪列も並べられ、5世紀初頭の築造時の姿が再現されています。



縄文時代から古墳時代の大阪平野

歴史の分類上、3世紀から7世紀を古墳時代と言い、全国的に古墳が数多く造営されました。八尾の古墳分布の特徴として前期から後期のものまでが揃っていることがあげられます。つまり八尾は「古墳のモデルルーム」と言えるのです。



復元された心合寺山古墳

明治初期、大阪造幣局のお雇い技師として来日した英国人ウィリアム・ゴードンは、八尾の古墳群にすっかり魅せられ、熱心に観察と研究を重ねました。また大森貝塚の発見で有名なエドワード・モースも八尾の古墳に魅せられたのです。わたしも何回も見学しましたが飽きるということはまったくありません。



愛宕塚古墳、石室の容積は大阪府下最大を誇ります



愛宕塚古墳、石室の容積は大阪府下最大を誇ります

明治初期、大阪造幣局のお雇い技師として来日した英国人ウィリアム・ゴードンは、八尾の古墳群にすっかり魅せられ、熱心に観察と研究を重ねました。また大森貝塚の発見で有名なエドワード・モースも八尾の古墳に魅せられたのです。わたしも何回も見学しましたが飽きるということはまったくありません。身近な古代遺産ですので皆様もぜひ散策してください。あらためて八尾の資産の豊かさに驚かれると思います。そして数多くの古墳（300基以上が現存）が造営された時代の八尾に思いを馳せてください。とても豊かな地域であった八尾が想像されます。古墳などの史料のご請求は小職までどうぞ。心を込めたものを提供します。

今回は中河内、八尾の古墳群。なんとも興味深いお話を提供していただきました。いったいどなたの墓なのか、御陵は仁徳天皇さんのみならず。八尾に21世紀の御世まで残る墳墓はこの地が人の営みに栄えた歴史を表します。明治の初め、鎖国が解かれ日本を訪れた外国人を魅了したのは、この国の悠久の歴史と文化であったとか。歴史探訪、ちょっと行ってみたいくなりませんか。（編集 西岡）